

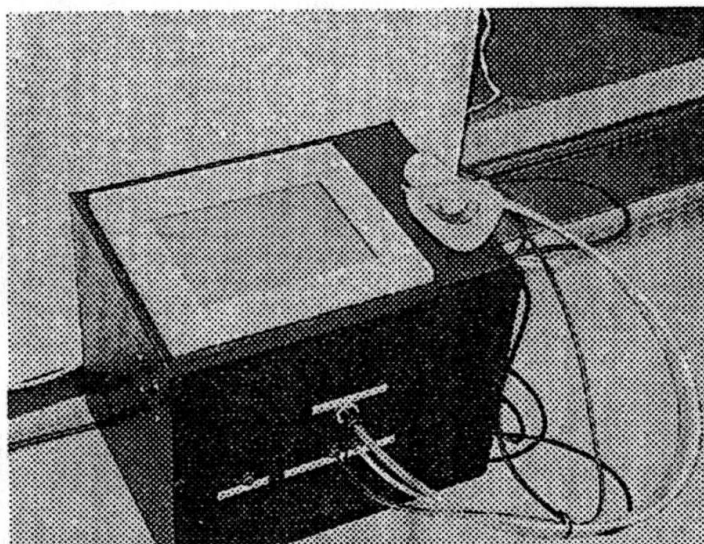
2000年(平成12年)1月5日 水曜日

福祉 & 健康

独居者緊急時に手助け 遠隔在宅医療システム 東京医科歯科大が開発

東京医科歯科大学医学部の若松秀俊教授は、緊急時の在宅医療を支援する「遠隔在宅医療支援システムII写真」を開発した。家庭に

設置する補助呼吸装置などの各機器を、通信回線経由で医師につなぎ、緊急時の措置などに役立てようというもの。独居老人などに対する本格的な支援システムとしての実用化を目指す。また将来的には、バーチャルリアリティの技術を取



内に補助呼吸装置、端末制御器、カメラなどを設置。発作などの緊急時に、補助

り込むなど多様な機能を加え、システムを充実する。同システムは、独居者の緊急時通報を容易にするとともに、助けが来るまでの間、適切な措置が受けられるのが特徴。利用者は家庭

呼吸装置のマスクを装着、装置の働きにより応急措置を受ける。また同時に端末が作動、通信回線を経て医師に情報が伝わる仕組みになっており、医師はモニターに表示される映像などをもとに、遠隔で視診を行い、マイクを使った呼びかけや救護要請などの対応をする。同教授は別途開発中のバーチャルリアリティの技術を用い、将来的には同システムで触診や聴診といったより詳細な診察ができるようにしたいとしている。また、同システムを核に、行政や医療機関を含めた地域一体の福祉支援システムの具体化も目指す。